

旭川家具づくりの今, これからの展望

株式会社匠工芸 代表取締役 桑原義彦



1 (株)匠工芸とは

「樹木のいのちを預かって一生大切に使いたいと言ってくれる人のために、心を込めて家具をつくる。私たちはどんな時もずっとそうして歩いてきました。

人は成長がないと言うかもしれない。でも私たちの精神はきっと変わらないでしょう。

人間の手は素晴らしい。木の生命を家具に吹き込む手。人を楽しませる美しいかたちを生み出す手。匠工芸は、手を信じることから世界を考えています。

家具メーカーでありながら、つくり方も考え方もメーカーらしくない。それが私たちなのです。」

このような考え方で、1979年の創業以来、技を磨き、考え方を磨き、心に響く旭川家具を提供してきました。

会社は、1979年、旭川市東8条5丁目で消費者ニーズに合わせてつくるオーダーメイド家具の製造を従業員3名により始めました。1989年'89東京国際家具見本市に出展を開始し、1年おきの出展を続けクラブの振興に力を注ぎました。

1993年、上川郡東神楽町に新社屋・工場を建設、移転。現在、従業員40名になります。

1996年、東神楽町町内の小・中学校生徒の提案による「君のアイデアがほんものになる」を開始し、以後10年間開催しました。1999年に製作したBANシリーズ、ソイルパーソナルチェアがGマーク選定商品となっています。



展示ショールームでのクラフト製品

2 家具の今

家具といえば殆どは広葉樹材を利用していますが、国産の広葉樹材は不足気味と言われ、良質の原材料も手に入りづらくなっています。そのため、輸入材に頼らざるを得なくなります。

広葉樹材では勿論素晴らしい家具を作れますが、針葉樹材で同じように作れないものかと考えているところです。事実そのような問い合わせも数多くあります。

旭川家具工業協同組合加盟（37社）のメーカーで、30年以上前にカラマツでダイニングセットを作りましたが、思うような強度も得られず、お客さんに受入れられませんでした。リビングチェアも思うような加工・デザインは作れませんでした。

色々考え検討し、塗装等も工夫したにもかかわらず針葉樹家具は黄変しました。これは針葉樹家具の特徴ではありますが、これではお客さんも買ってくれることにはならず、製作は止めました。



針葉樹材の椅子を製作中

しかし、20年くらい前から北欧やカナダのパイン材で家具を作り売り出したところ、針葉樹は黄変するものと理解していただき、カントリーっぽい環境の中で使われ出しました。堅そうに仕上がった針葉樹家具でもキズは付きやすいという問題もあります。しかし、多くの方が抵抗無く使ってくれていま

す。つまり、お客さんが針葉樹の良さを理解し、納得して使っていただければ今後の可能性は沢山あるのだと思います。

広葉樹資源が少ないと言われる中、針葉樹を用いた家具は、つくり方、考え方一つで魅力いっぱいの商品に変わると思います。

例えば、エゾマツにしても強度は出ない。家具としては広葉樹と同じデザインのものは作れません。しかし、人工乾燥でヤニを抑え、黄変も針葉樹材の持ち味ととらえ、針葉樹こそのおおらかなデザインであれば家具は十分に魅力あるものとすることができます。

“自然の素材ですよ”という持ち味の良さを積極的にアピールする必要があります。



針葉樹を用いた製品も種々展示

若い人は針葉樹家具を商品のワンアイテムとして使い、受け入れます。針葉樹の良さ、感覚、考え方で十分に使えるのです。

3 森林の大切さと木材の利用

将来は今以上に国産材を使うようになります。そのとき、川上から川下まで経済効果が出るように使わなければなりません。

1次産業の大切さ、それは地域で人間らしくできる生活です。経済先行で深く将来を考えず、1次産業を大事にしない考え方は止めた方がいいと思います。わが国の国土の7割以上が森林であり、森林との関わりは非常に深いと思います。その中で、木を伐ることを悪者扱いする方もいるようですが、寿命で朽ち果てる前に伐採したり間伐したものを利用しているのであり、端材も有効活用しているのです。

針葉樹も広葉樹も限りある資源ですが、人間の知恵で工夫し、伐ったら植える等の循環で地域は頑張り共存共栄できる環境を作っています。今、森林・木材との強い繋がりの中で生きています。これからも、森林は大切にしなければならないと考えています。



新デザイン椅子の展示

4 地産地消の原点で

生きるための豊かさを考えるとき、若いエンドユーザーは仮に200円高くてもプロセスがしっかりしていれば買います。高いけれどおしゃれで国産製であれば買うという考えにあります。地産地消の原点を訴えるような製品であり、高くても知性を感じるようなものであれば、その人にとっては得だと言うことになると思っています。

多くの方々に地産地消の考えに賛同していただき、私たちは家具材に相応しい原材料が手に入るうちは、広葉樹、針葉樹を問わずユーザーに受入れられる高品質のものを提案していきたいと思っています。



家具製作工場の様子